

歩掛参考見積募集要領

次のとおり歩掛参考見積を募集します。

令和3年 7月 30日

独立行政法人水資源機構
筑後川上流総合管理所長 杉尾 俊治

1. 目的

この歩掛参考見積の募集は、両筑平野用水事業で実施している業務における設計変更の積算の参考とするための作業歩掛を募集するものです。

2. 参考見積書提出者の資格

- (1) 水資源機構における令和3・4年度一般競争（指名競争）参加資格業者のうち土木関係建設コンサルタント業務の認定を受けていることとします。
- (2) 営業に関し法律上必要とされる資格を有していることとします。
- (3) 当機構から「工事請負契約に係る指名停止等の措置要領」（平成6年5月31日付け6経契第443号）に基づき、筑後川水系関連区域において指名停止を受けていないこととします。

3. 参考見積書の提出等

参考見積書は次により提出してください。

- (1) 参考見積書は作業項目毎に必要な作業員（技術者）の人数等を記載して提出してください。
なお、参考見積書の様式は別紙見積様式を参考に作成してください。
- (2) 提出期間 令和3年 8月 2日（月）から令和3年 8月11日（水）まで
持参する場合は、上記期間の土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、9時00分から17時00分まで（12時00分から13時00分までを除く）
- (3) 提出先
独立行政法人水資源機構筑後川上流総合管理所 所長 杉尾 俊治 宛
【担当】総務課 久保 和也
〒838-0012
福岡県朝倉市江川 1660-67
TEL (0946)25-0113 FAX (0946)25-1455
- (4) 提出方法
参考見積書は郵送又は FAX（いずれの場合であっても社印があること）により提出するものとします。

4. 参考見積内容

- (1) 基本条件
歩掛参考見積の歩掛は、江川ダムの施設機能診断を目的とした揚圧力の調査、分析等を行うことについて、実績等に基づくものを参考に積み上げた標準的な歩掛とします。
- (2) 業務目的
江川ダムの施設機能診断を目的として、監査廊内に設置している揚圧力の調査を実施し、

江川ダム特有の堤体挙動の傾向等について分析、考察するものである。

(3) 作業項目・作業内容

作業項目・作業内容の詳細については、別紙見積仕様書のとおりとします。

(4) 業務費の構成と歩掛見積徴取範囲

①本歩掛参考見積に適用する業務費の構成は、国土交通省が別に制定する「設計業務等標準積算基準書」（以下「基準書」と言う）に準じるものとします。

②歩掛参考見積の募集範囲は基準書で定義されている直接人件費のうち、上記「(3)作業項目・作業内容」を実施するために必要な技術者の人数等を徴取します。

(5) 技術者の職種と定義

国土交通省が公表している「令和3年度設計業務委託等技術者単価」における「技術者の職種区分定義」によるものとします。

5. 募集要領に対する質問

この依頼書に対する質問がある場合においては、次に従い、書面（様式は自由）により提出してください。

- (1) 提出期間：令和3年 8月 2日（月）から令和3年 8月 4日（水）まで
持参する場合は、上記期間の土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、9時00分から17時00分まで（12時00分から13時00分までを除く）
- (2) 提出場所：3. (3) に同じ
- (3) 提出方法：3. (4) に同じ

6. 質問に対する回答

質問に対する回答書は、次のとおり閲覧に供します。

- (1) 閲覧期間：令和3年 8月 6日（金）から令和3年 8月11日（水）まで
- (2) 閲覧方法：本募集要領を掲載したホームページを確認願います。

7. 参考見積書作成及び提出に要する費用

参考見積提出者の負担とします。

8. ヒアリング

提出して頂いた参考見積書についてヒアリングを実施することがあります。

9. 問い合わせ先

3. (3) の提出先に同じ。

10. その他

この参考見積書をご提出いただいたことで業務の指名又は競争参加資格をお約束するものではありません。

ご提出いただいた参考見積書は、業務積算の目的以外には使用いたしません。

別紙見積様式

機能診断調査 見積様式

1. 計画準備

1 式当り

作業項目	技師長 (人)	主任技師 (人)	技師A (人)	技師B (人)	技師C (人)	技術員 (人)
計画準備						

※作業項目数などにより補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。(記載方法自由)

2. 堤体挙動調査

1 回当り

作業項目	技師長 (人)	主任技師 (人)	技師A (人)	技師B (人)	技師C (人)	技術員 (人)
堤体挙動調査						

※作業孔数などにより補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。(記載方法自由)

3. 観測結果の整理、分析等

1 式当り

作業項目	技師長 (人)	主任技師 (人)	技師A (人)	技師B (人)	技師C (人)	技術員 (人)
観測結果の整理、 分析等						

※対象分析数などにより補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。(記載方法自由)

4. 報告書作成

1 式当り

作業項目	技師長 (人)	主任技師 (人)	技師A (人)	技師B (人)	技師C (人)	技術員 (人)
報告書作成						

※調査項目数などにより補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。(記載方法自由)

(提出様式例)

作業項目	単位	技師長 (人)	主任技師 (人)	技師A (人)	技師B (人)	技師C (人)	技術員 (人)
1. 計画準備	1 式						
2. 堤体挙動調査	1 回						
3. 観測結果の整理、 分析等	1 式						
4. 報告書作成	1 式						

別紙

見 積 仕 様 書

令和3年8月

独立行政法人水資源機構

筑後川上流総合管理所

1. 業務目的

江川ダム（重力式コンクリートダム、昭和 47 年完成）の施設機能診断を目的として、監査廊内に設置している揚圧力の調査を実施し、江川ダム特有の堤体挙動の傾向等について分析、考察するものとする。

2. 見積の前提条件（貸与資料）

以下の貸与資料を受けた前提として見積を行うものとする。

- (1) 施設の管理用図面
- (2) 江川ダム観測機器〔揚圧力〕の調査結果及び安定性評価資料（昭和 50 年度～令和 2 年度）
- (3) 両筑平野用水設計図集
- (4) 両筑平野用水管理記録
- (5) その他、調査職員が必要と認めたもの

3. 機能診断調査

3-1 計画準備

調査開始に先立ち、調査の内容を十分検討したうえで、作業計画を立案するものとする。

3-2 堤体挙動調査

江川ダム監査廊内の測定孔（全 23 孔）を対象に、揚圧力の計測（1 回）を行うものとする。計画は 1 回（23 孔/回）とし、測定孔の閉塞から圧力値が安定するまでの間の圧力上昇傾向と一定時間経過後の圧力計値を計測し、記録するものとする。

3-3 観測結果の整理、分析等

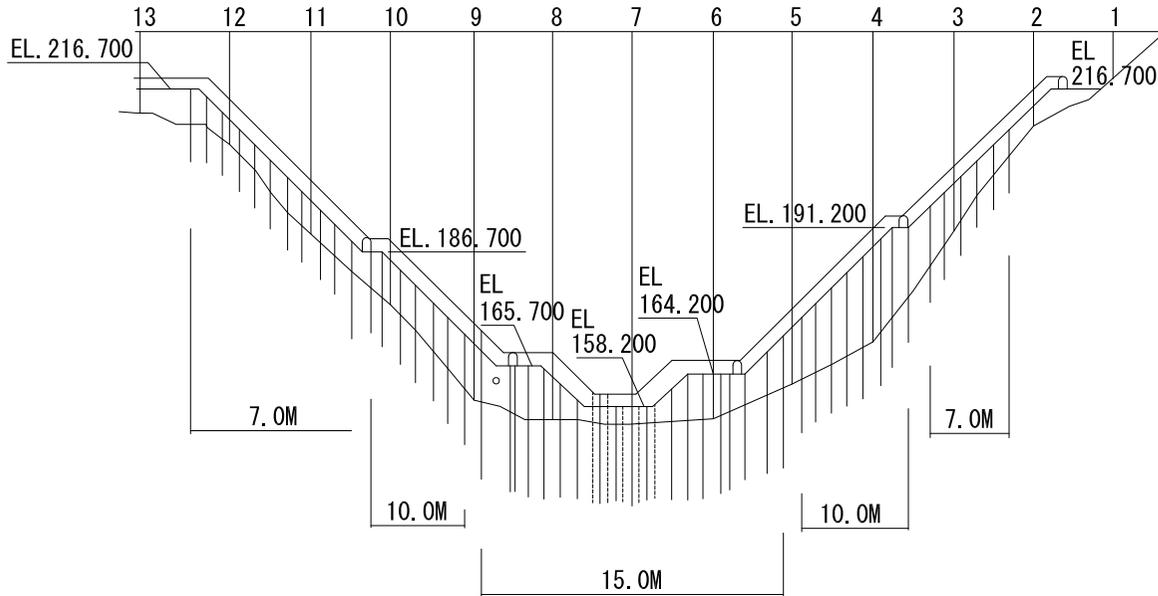
- (1) 3-2 で計測した結果を整理した上で、貸与する過年度の調査結果（昭和 50 年度～令和 2 年度の揚圧力と貯水位の相関結果等）等と比較して、経時的変化の確認や異常な揚圧力の有無の確認、管理基準値との対比等を行うものとする。
- (2) 3-2 で揚圧力を調査した測定孔毎に、測定孔の閉塞から圧力値が安定するまでの間の圧力上昇傾向と圧力が安定するまでの所要時間について傾向分析し、江川ダムにおける揚圧力調査の方法等について考察するものとする。

3-4 報告書作成

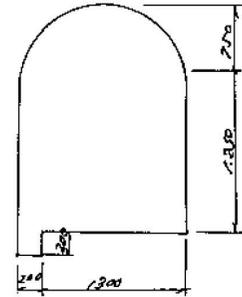
調査成果に基づき、報告書を作成するものとする。

参考図

背面図 S=1/250



小型通廊標準図

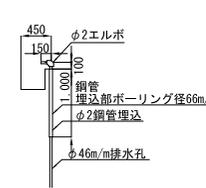


注意事項

- この図面は、江川ダムにおける揚圧力減勢工図に適用する。
- 構造寸法は、特に示さない限りmm単位で示し、標高はmで示す。
- 背面図に示す延長(M)は、岩盤部分の削孔深度を示す。
- 平面図のうち、Pは圧力計を設置している孔(水圧測定孔)を示す。

詳細図 S=1/40

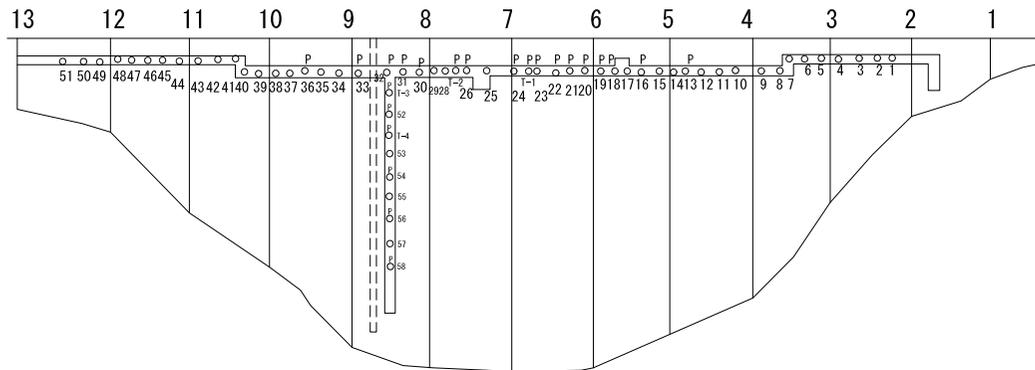
流出パイプ取付部



揚圧力計取付部



平面図 S=1/250



減勢工	開放孔	38 本
	水圧測定孔	23 "

工事名	
工程	種別
名称	揚圧力減勢工図
登録番号	整理番号
独立行政法人水資源機構 両筑平野用水管理所	